

と創生総合戦略の概要

の安平町を未来にしっかり引き継いでいくため、改めて戦略的な人口対策に取り組むものとし、「安平町まち・

と、これを実現するため、今後5年間の具体的な施策・事業を取りまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」

した「子育て世代に選ばれるまち」「生涯住み続けることができるまち」の実現を目指すことを掲げ、将来にわ

要業績評価指標（KPI※）として設定しており、毎年度「安平町未来創生委員会」において検証を行い、必要

（※を計る定量的な指標のこと。）
 だきご参照ください。【企画財政課企画グループ ☎ 2751】

3. 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析

・平成27年（2015年）の税率と税収額を基準値に社人研※の将来推計どおり人口減少が進んだ場合の税収を予測⇒生産年齢人口の減少により約35%の減少（※税率は平成27年で固定）が予測されます。

※社人研：国立社会保障・人口問題研究所



4. 人口の現状分析・将来推計に基づく将来の方向性

- ・安平町は、平成5～14年の10年間の移住・定住政策が寄与し、人口増加を達成した期間もあります。
- ・また、町外からの通勤・通学者が1,863人もいることから、これらの方を定住に結びつけるチャンスがあります。（昼夜間人口比率106.7%は全国174位）



自然減少の食い止めは可能か ⇒出生者数が死亡者数を超えることは、当面は難しい

○死亡者数を減少させることは困難（寿命の延伸は可能だが、数は減らせない）

○子育て環境の整備により、出生者数を増加させることは可能

社会減少の食い止めは可能か ⇒社会増加の実現可能性は十分にある

○20代前半の若者の転出抑制は、当面は困難（進学先・雇用先の供給が少ない）

○子育て環境の整備により、25～30代の転入促進と転出抑制は可能

○移住定住者が住み続けられるまちづくり実現の結果、高齢者転出も抑制可能

5. 将来展望人口の推計

- ①合計特殊出生率（子ども女性比）の向上
 - ・子育て環境を整備し、合計特殊出生率を2020年に1.6人、2030年に1.8人、2040年に2.07人とする目標
- ②子育て世代の転入促進
 - ・従来からの移住定住者数に子育て世代を年間6世帯分上乗せ（5年で30世帯を上乗せ）とする目標
- ③町民が生涯にわたり安全・安心に住み続けるための政策の実現
 - ・移住定住後、生涯にわたり住み続けるまちづくりをめざし、高齢者の年間平均転出数を半減する目標

2040年の安平町将来展望人口 6,657人
 社人研推計：5,897人（12.9%増）

